

## 第2回小平市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会会議事内容

### ■日時及び場所

日時：令和5年10月3日（火） 10:00～11:40

場所：福祉会館 第1集会室

### ■参加者

小平市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会委員：9名

事務局：教育指導担当部長兼指導課長、文化スポーツ課長、教育総務課長、学務課長、教育  
施策推進担当課長、地域学習支援課長、指導課長補佐、指導主事、指導課主事

### ■傍聴者

3名

### ■配布資料

- 資料1 スポーツ活動・文化芸術活動アンケート（小学校第5・6学年児童）
- 資料2 スポーツ活動・文化芸術活動アンケート（小学校第5・6学年保護者）
- 資料3 スポーツ活動・文化芸術活動アンケート（中学校第1・2・3学年 生徒）
- 資料4 スポーツ活動・文化芸術活動アンケート（中学校第1・2・3学年 保護者）
- 資料5 スポーツ活動・文化芸術活動アンケート（中学校教員）
- 資料6 スポーツ庁広報ビラ

### ■議事内容（次第に沿って記載）

#### 1 議題

##### （1）アンケート結果の分析

###### ○事務局説明

小学校第5・6学年児童及びその保護者、中学校第1・2・3学年児童及びその保護者、中学校教員に対して、9月4日（月）から15日（金）の期間でアンケート調査を実施した。

アンケートの回答数が、小学校第5・6学年児童は、1,297名、小学校第5・6学年保護者は、1,148名、中学校第1・2・3学年生徒は、1,379名、中学校第1・2・3学年保護者が、1,520名、中学校教員は、126名という結果となった。

資料1について、問3の（10）の「中学校での部活動は楽しみですか」という質問に対して、79.9%の小学校第5・6学年児童が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した。また、問6の「スポーツを取り組むに当たってあなたの考えはどちらに近いですか。」では「練習は厳しくても、大会で優勝する（好成績を残す）ことを目指したい」が31.4%であり、一方、「厳しい練習よりも運動を楽しむことを大切にしたい」が68.6%という結果であった。

資料2について、問4の「中学校の部活動に期待することを教えてください」という質問に対して、約80%近くの小学校第5・6学年児童の保護者が「部活動を通じて仲間を増やすこと」、「部活動を楽しむこと」と回答した。

資料3について、問3の（8）「部活動に所属してよかったことを教えてください。」では、「友達ができた」「活動が楽しい」がともに中学校生徒の70%を超え

る回答があった一方、問3の(9)「部活動で困ったことを教えてください。」では「学業との両立が難しい」と回答した生徒が最も多く48.4%という結果となり、次いで「生徒や指導者との人間関係」、「練習日数や時間が多い」がそれぞれ約30%弱という結果であった。

資料4について、問3の(4)の「子どもが部活動に所属して課題を感じたことを教えてください。」では、「学業との両立が難しい」と答えた中学校の保護者が31.4%おり、特になしと答えた保護者が30.7%という結果となった。

問5の(4)の「中学校の部活動を地域クラブ等が担うことについて、期待することはありませんか。」という質問については、「専門的な指導が受けられること」と答えた保護者が67.8%と最も多く、2番目に高かった「技術力の向上」と答えた保護者は58.8%であった。

資料5について、問2の(8)「部活動の指導に負担を感じていますか。」という質問に対しては、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した教員は76.1%という結果であった。

問3の「学校部活動の意義・必要性について、どう考えますか」という質問に対しては、48.4%が「学校管理下での活動に一定の必要性はあると思うが、地域クラブ等の活動でも教育的な活動は可能」という結果であった。(事務局)

## (2)あり方の検討

○アンケートの結果を受け、本委員会での検討内容である「部活動に関わっている教員の在校時間について」、「平日の部活動地域連携について」、「休日の部活動地域移行について」、「人材の発掘について」4つの事項について検討していきたい。

また次回、第3回も4つの検討事項について検討し、その後、事務局が報告書をまとめ、第4回で報告書の内容確認を行う予定である。(委員長)

### 部活動に関わっている教員の在校時間について

○アンケートの結果を確認すると、資料5の問2の(8)「部活動の指導に負担を感じていますか。」という質問に対しては、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した教員は76.1%おり、加えて、問2の(2)(3)(4)(5)(6)の教員の指導日数及び指導時間についての質問については、回答結果から半分以上の教員が週4日以上勤務であり、指導時間も平日は2時間以上、休日は3時間以上という状況であることが分かる。

小平市の部活動の方針では運動部・文化部ともに平日2時間、休日は3時間までとしており、また休養日も平日は少なくとも1日、週休日は少なくとも1日を休養日としているが、このアンケートからは、完全には言い切れないもの一部では順守できていないケースもあるように見られる。また、資料3では、問3(9)「部活動で困ったことを教えてください。」では48.4%が「学業との両立が難しい」と回答している。このアンケート結果から教員、生徒ともに負担に感じていることが分かり、また、国や都のガイドラインでも、小平市の部活動の方針と同様の基準を設けていることから、検討委員会としてもこの現状について課題として捉えてもいいのではないかな。その上で学校の現状をこの検討委員会で

さらに共有したいと思うが、中学校校長会代表の委員に学校の現状について伺いたい。(委員長)

→部活動による拘束時間は学校によって異なるが、夏場であれば教員が指導に入る時間が16時になり、下校時間を考えると18時30分頃になるため、最大限実施したとしても2時間半ほどの時間となるだろうが、下校時間に生徒を帰すことを考えると、指導時間としては2時間ほどになるのではないか。

休日は、大会等を行うこともあり、教員は長時間の勤務になる。新型コロナウイルス感染症対策として以前は半日で終わっていたが、徐々にコロナ以前のように1日を通して大会運営になっている。

また、資料3の間3(9)「部活動で困ったことを教えてください。」では「学業との両立が難しい」という回答多いようだが、両立が難しいのは分かるが、一方で学校独自で行っている生活アンケートの結果を見ていると部活動をやっていない生徒が家庭学習をしっかりやっているかということと一概にそうとは言い切れない。

勉強との両立のため指導日数や指導時間を減らすことについて、その時間が必ずしも家庭学習のための時間になるとは限らないのではないか。

また、部活動は生徒の自主性・主体性が尊重されるため、資料3の間3(9)のようにトラブルが起きやすい部分もある。そのため、どこの学校でも目標やルールを定め、生活指導をしっかりやるようにしていると思う。そのような生徒管理の観点からも、部活動は生徒たちの自主性・主体性を尊重するとはいえ、生徒だけに任せきりにすることは出来ない。

また、資料5のアンケート結果を見ると、部活動に負担を感じている教員が多く、今後、必ずしも部活動を行う必要がないとなると、部活動を担う教員が減っていき、授業の一環として実施していた課内クラブのように実施していくしかないのではないか。

また、15時45分から16時30分までは教員の休憩時間であり、そこを勤務として部活動指導を行えないとなると、今後、部活動を学校が担っていくのは難しい。

また、本校では、基本的にガイドラインを守った部活動指導を行っているが、大会前となると、週休日2日ともに指導することもある。大会後の次の週休日は2日間ともに休みにするなどをして、月全体としてガイドラインに沿うように行っている。

加えて、本校では平日3日の部活動指導を推奨しており、活動の強制はしていないが、生徒や保護者の要望を受け、平日4日の部活動を行っている部活動もある。運動部にその傾向があると思う。

恐らく、どこの学校も管理職が部活動の指導を積極的にするよう指導していることはないと思う。生徒や保護者のニーズを受けて、活動日数や時間が多くなっているのではないか。

校長の方針により、顧問教員の負担を減らすため、部活動指導員が指導に入

れるときは、顧問教員はできるだけ指導には入らずに他の校務を行うよう指示したところ、顧問教員が部活動の指導を行ってこないといった声が保護者から上がったこともあり、部活動指導員の扱いについて保護者の中での認知度が高くないのが現状ではないか。(委員)

○生徒がどうしたいのかという点が大事だと考える。生活指導上の課題や休日に生徒の居場所があるかなどの懸念はある。

そのような中で、本委員会で生徒が選択・生み出すような素地にしていける地域連携・地域移行を進められたらいいのではないか。(委員)

#### 平日の部活動地域連携について

○検討に入りたいが、その前に部活動の地域連携と地域移行の違いについて事務局から説明してほしい。(委員長)

→資料6を確認してほしい。

部活動の地域連携とは学校で運営・実施するものであり、複数校でまとめて一つの部活動をする合同部活動の導入や、部活動指導員等の地域の人材を活用することである。

次に、部活動の地域移行とは、スポーツ・文化芸術団体や民間事業者等の地域の多様な団体等が主体となって活動をし、市民体育館や公民館等、学校以外の多様な場所で実施する部活動を代替する活動を進めることである。(事務局)

→事務局からは、小平市では現在部活動指導員を配置しているとのことだが、資料5の問2の(9)では、部活動の指導に負担を感じている教員のうち、69.9%は「校務が忙しくて指導ができない。」と答えており、52.2%は「専門的な指導ができない。」と答えている。

この結果から教員の代わりとなって部活動の指導をすることができる部活動指導員の必要性は高いと考える。小学校と中学校の保護者代表である委員2名に保護者の立場として、部活動指導員が指導を行うことをどのように思うか伺いたい。(委員長)

→既に部活動指導員については配置されている事例もあることからそこまで抵抗感はない。指導者が信頼できる人物なのか心配な部分もあるが、そこは採用時に学校が信頼できる人物か確認をしていることや、何かトラブルがあれば、学校が対応してくれると安心はしている。(委員)

→部活動に入部する段階で先輩や保護者から事前の評判等を聞いた上で入部していると思うのでそこまで心配はしていない。しかし、新規に入った部活動指導員となると懸念はあるかもしれない。(委員)

## 休日の部活動地域移行について

○現在、小平市においては、地域が主体となっている又は地域と連携している活動について、運動部・文化部活動にどのようなものがあるか確認をしたいが、小平市体育協会及び小平市文化振興財団で何か取組があるか。(委員長)  
→6つの種目において小平市体育協会が主催の講習会を開催している。実施種目としては卓球、ソフトテニス、陸上競技、スキー、バレーボール、バスケットボールになる。各講習会の参加者数は卓球については約120名、ソフトテニス部については137名、陸上競技については137名、スキーについては18名、バレーボールについては約50名ほどになる。費用については東京都からの補助金で賄っており、補助金なしでは継続していくのは難しい。

なお、バレーボールについては東京グレートベアーズのスクールコーチが講師として指導している。陸上競技については陸上競技協会から講師を出してもらい指導をしてもらっている。

小平市体育協会としては、限られた補助金のなかで行っているため、より多くの種目の講習会を開くことは難しいかもしれない。現在は、学校部活動の補助という形で講習会を開催している。

また、地域移行に伴う会場等の課題について、現時点で小平市市民総合体育館の使用率は100%に近い状態で地域クラブ等の活動を小平市市民総合体育館だけで行うことは難しいと考える。(委員)

→1年に一回、吹奏楽に興味のある近隣他市を含めた中学生・高校生を対象にプロの吹奏楽団による指導の場を設け、その日の夕方にプロの楽団と一緒に合同演奏を行っている。

日頃の活動というよりは、日頃の活動の成果発表の直前指導というコンセプトで実施している。

費用負担については小平市文化振興財団で負担している。(委員)

○公共施設の利用について事務局から説明してもらえないか。(委員長)

→平日については空いているが、休日は大会等があったりして埋まっている。

現状では、市の公共施設にも限りがあるため休日の地域クラブ等の活動のために場所の提供は難しいと考える。(事務局)

○地域クラブ等の活動場所についてだが、小学校の校庭、体育館、教室などを活用することもできるのではないか。(委員)

## 地域人材の発掘について

○部活動指導員による地域連携や地域のクラブによる地域移行を進めるにあたって、人材確保や地域のクラブチームや文化団体とのコネクションが必要になるが、現在、小平市では、どのように人材を確保しているのか事務局からお願いする。(委員長)

→部活動指導員については、各学校が教員たちの人脈を活用し、知り合いや元教員などに依頼している。場合によっては、東京都教育支援機構の「TEPRRO」を活用し、人材を確保している。(事務局)

→学校の人脈を活用して探すことが多いのか。(委員長)

→学校の人脈を活用して指導員を探している。ただ、大学生の場合は、責任問題もあるため、外部指導員として指導をお願いしている。

部活動指導員については、校長が面接し、専門的指導だけではなく、教育的な指導ができるのかを見て、部活動指導員として教育委員会に申請している。加えて、小平市教育委員会でも部活動指導員に対する研修会を開催しており、その中で教員と同じような責任が求められることを伝えていることから部活動指導員の方は人間的にも指導力もしっかりしている方が多い。

また、本校では来年度のコミュニティ・スクール設置に伴い、地域住民に向けて意向調査を行う予定であり、設問の中に部活動の指導等について触れていることから地域の反応を見てみたい。

今後の人材確保についてだが、仮に合同部活動という形ではなく学校単位で地域連携・地域移行を進めた場合、多くの指導員を確保していく必要がある。

そのため、現状では一校一つの部活動に一人の部活動指導員を配置することとしているが、これを一校二つの部活動に指導時数を半分にして二人の部活動指導員を配置することができるようにするなど、柔軟な運用をできるようにしてほしい。

また、付近の小学校、高校、大学、特別支援学校に在籍の教員で、部活動の指導を希望する方から人材を確保するのも良いのではないかと。

指導者確保という視点ではないが、本校と近隣の小平市立中学校の野球部の部員数が少数であることから合同部活動という形で活動している。

合同部活動を行うことで、必要な指導者も従来の半数で済み、試合等による引率も半数で済む。今後は部活動の精選をしていき、部員数が少ない部活動については、近隣の中学校との合同部活動として行っていても良いのではないかと。(委員)

○現在、小平市体育協会と小平市文化振興財団で指導者を中学校に紹介している事例はあるか。(委員長)

→小平市体育協会では、多くはないが事例はある。中学校から問い合わせがあった場合は、小平市体育協会から各連盟や団体に人材紹介の問い合わせを

し、学校と各連盟や団体との仲介をしたことがある。

小平市体育協会に加盟している団体が33団体あるため、問い合わせがあれば、ある程度対応はできると思うが、現状では、中学校からの問い合わせが無いのが実態である。

また、あくまで仲介であるため、各連盟や団体から紹介された人材に専門的指導力があつたとしても教育的指導ができるのかまでは分からない。(委員)

→小平市文化振興財団ではそのような事例はない。

今回、一部の学校の吹奏楽部に対して、指導者確保の実情について聴取を試みたが、長年指導していただいている方であったり、OB・OGが指導していたりと吹奏楽部では、指導者確保について難航しているという声は聞かなかった。(委員)

- 地域連携を主軸にして進めていき、地域移行を部分的に進めていくのが現実的ではないか。(委員)
- 小学校の例で、地域の人材を講師としたプログラミング教室を開催したことがある。地域の中には部活動の指導ができるような人材がおり、それを地域教育コーディネーターが学校との間で仲介することで、部活動指導の人材確保ができるのではないか。(委員)
- 外部の指導者による指導は良いと思うが、現場の中学校からは外部の指導者は普段は学校にいないため、学校や生徒の状況が分からないという声や何かあつたときの補償はあるのか等の声があつた。また、学校の教員ではないと教育的な指導がしっかりできないのではないかという心配もある。小平市で地域連携・地域移行を進めるにあたって、基準を作っていく必要があるのではないか。(委員)
- 特定の種目の指導者を探すのは学校にとっては大変なことであり、すぐには見つからないというのが実情である。

既存の部活動を無くしていくということではなく、地域の中にどのような指導者がいるのか調査をし、その上で地域の人材に合わせた部活動をつくるのもいいのではないか。アンケートにも部活動を楽しみたいという声があるため、まだ世間的になじみの薄いスポーツ・文化活動の専門家が地域の中にいれば、新たに活動を楽しむことを目的としたレクリエーション部のような部活動をつくることもできるのではないか。(副委員長)

## 全体を通して

○保護者としては部活動に関わる指導者がどれだけ信頼できる人物か分からない。

指導力についても十分な指導力を持つ人物か分からない。

また、平日の地域連携と休日の地域移行が連携した形になることを望む。平日の地域連携と休日の地域移行が連携せず、別活動となってしまうと生徒にとっても良くないのではないか。そのためにも教員の中にも部活動の指導に対する情熱がある教員もいるため、休日の部活動地域移行の場に教員が活躍できるようにしてもいいのではないか。(委員)

→専門的な技術指導ができるからといって、生活指導ができるというわけではない。部活動指導員については既に小平市において研修を開いているのだろうが、それだけでは足りない部分もあるだろう。また、休日の部活動地域移行に部活動の指導にやる気のある教員をどう関わらせていくのか。そのあたりについて次回検討していく必要がある。(委員長)

→学校部活動という組織(チーム等)をくずして、休日の部活動地域移行を行う場合、それは、学校部活動ではなく、社会体育としてのスポーツ活動や地域の文化活動ということになる。そのあたりを混同しないよう議論していく必要がある。(委員)

○部活動を居場所としている生徒もいることから生徒にとって必要である。(委員)

## 連絡事項

○次回の第3回検討委員会については12月を予定しているとのことで、詳細の日時や場所については別途、事務局から各委員に連絡がある。(委員長)

以上